

■外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	95	2.25	4.92	4.21	62.34	
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	88	0.99	0.86	0	35.69	
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	55	0.36	3.2	0	33.24	
K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））	54	1	2.76	1.85	60.76	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	50	3.94	10.74	4	68.26	

上位5位全てでクリニカルパスを適応しており、入院期間の短縮ができています。腹腔鏡下虫垂切除術に関しては、虫垂炎の緊急手術や待機手術ともに、ほとんどが腹腔鏡下で行っており、術後合併症も少なくなってきました。また、鼠径ヘルニアの手術も成人・小児を問わず腹腔鏡下手術が増えています。乳がんに対する乳腺悪性腫瘍手術は一番多く行われ、変形の目立たない乳房温存手術が主流となっています。結腸・直腸癌には、鏡視下手術が主体となっております。

■産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	83	3.73	7.43	0	32.81	
K861	子宮内膜搔爬術	81	0.05	0.49	0	53.63	
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	61	3.2	7.02	0	34	
K867	子宮頸部（腔部）切除術	34	1	2.06	0	44.47	
K877	子宮全摘術	31	1	7.45	0	52.48	

地域周産期母子医療センターの役割として母体搬送が多く、搬送後に緊急帝王切開や多胎・既往帝王切開のため選択的帝王切開術も多数みられます。また、若年者の初期の子宮頸がんの増加に伴い子宮頸部の円錐切除術が増加しています。

■耳鼻咽喉科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	13	1.08	12.38	0	18.85	
K318	鼓膜形成手術	—	—	—	—	—	
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	—	—	—	—	—	
K309	鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	—	—	—	—	—	
K374	咽頭悪性腫瘍手術	—	—	—	—	—	

手術における疾患も近隣の病院からの紹介で、少人数にて実施可能の疾患が多いのが特徴といえます。小児及び成人の睡眠時無呼吸に影響する扁桃肥大、扁桃炎の反復によるいわゆる習慣性扁桃炎の根治目的での手術が多いといえます。また、内視鏡下鼻・副鼻腔手術や鼓膜穿孔性の中耳炎に対して鼓膜形成術を実施しています。扁桃周囲膿瘍は扁桃の周囲に膿瘍を形成し、増悪する場合は呼吸障害を起こすため、その前に切開排膿術を実施し対応しています。

■循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術（心房中隔穿刺、心外膜アプローチ）	91	3.69	3.55	3.3	70.33	
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	42	2.52	3.64	2.38	71.69	
K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術（その他）	34	3.18	2.29	0	62.29	
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	27	4.22	9.74	3.7	75.26	
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	17	0.18	17.41	5.88	67.53	

心房細動や頻脈性不整脈に対し、アブレーション治療（経皮的カテーテル心筋焼灼術）件数が増加しており、当科の主要手術となっています。当院には、24時間365日救急患者に対応する急病センターが設置されており、急性期の心血管疾患に24時間対応しています。このため、狭心症・不安定狭心症・急性心筋梗塞への経皮的冠動脈形成術も当科の主要手術となっています。また、末梢動脈疾患の血管内治療として、四肢の血管拡張術・血栓除去術等の症例にも対応しています。

■小児科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	35	0	22.57	5.71	0	
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	10	0	47.9	20	0	
K7151	腸重積症整復術（非観血的なもの）	—	—	—	—	—	
K300	鼓膜切開術	—	—	—	—	—	
K6182	中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	—	—	—	—	—	

当院はNICUを開設しており、産科とのスムーズな連携により新生児仮死の患者さんの救命に力をいれています。腸重積症の治療は非観血的整復術が第一選択であり、それにて整復できない場合に外科的（観血的）整復術が必要となります。当院ではどちらにも対応できる環境を整えているので患者数が多い理由と考えられます。

■消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	99	1.03	1.7	3.03	68.77	
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	45	2.2	13.16	13.33	80.64	
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	45	0.76	2.22	0	66.98	
K654	内視鏡的消化管止血術	37	0.62	11.38	5.41	69.54	
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	32	1.22	14.19	3.13	78.31	

大腸ポリープの患者さんに行われる内視鏡的切除術が最も多く、早期大腸がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術も専門医が複数名在籍していることから、県内では治療件数の多い施設です。大腸がんは検診の有用性が証明されており、早期発見すれば内視鏡治療による根治が期待できます。胆管結石の患者さんに行う内視鏡的乳頭切開術も多く行われています。現在は内視鏡的治療が進歩しているので、開腹しないで、内視鏡的に消化管腫瘍の摘出や胆管結石の除去を行うことが多くなってきました。消化器内科が中心となり、内視鏡治療を行っています。

■腎臓内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	14	0.86	2.64	0	65.71	
K6121イ	末梢動静脈瘻造設術（内シャント造設術）（単純）	10	10.4	10.3	10	68.1	
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	—	—	—	—	—	
K635-3	連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	—	—	—	—	—	
K606	血管露出術	—	—	—	—	—	

末期腎不全に伴い血液透析導入・維持するため、内シャント作成が必要となります。救急室もあるため、自院症例、かかりつけ医紹介症例、救急室受診症例を含みます。待機的にシャント作成する症例に比べ、救急室受診症例など、心不全・尿毒症発症時にシャント作成されていなかった場合は手術できる状態になるまでに時間を要し、術後もシャントの発達を待たなければならず、入院期間が長期化しています。かかりつけ医からの紹介例であれば透析導入後、速やかに転院となりますが、かかりつけ医がなく導入となった場合、退院後、維持通院透析がスムーズに施行できるのを確認してから外来で転院調整を行っています。維持透析経過中に内シャント狭窄・閉塞来すことがあり、そのような場合は、経皮的シャント拡張術・血栓除去術施行しています。これも自院のみでなく、他院からの紹介症例も受け入れています。処置後入院で経過みますが、大きな術後合併症なくシャント穿刺による透析施行ができるのを確認できたら退院となるため、多くは短期の入院となっています。

■整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	107	1.98	14.82	9.35	67.72	
K0461	骨折観血的手術（肩甲骨，上腕，大腿）	69	3.06	25.33	65.22	77.03	
K0811	人工骨頭挿入術（肩，股）	64	4.09	20.98	71.88	81.06	
K0821	人工関節置換術（肩，股，膝）	42	1.64	19.6	11.9	70.6	
K0462	骨折観血的手術（前腕，下腿，手舟状骨）	37	1.51	8.19	8.11	61.81	

当院は地域医療支援病院の為、近隣のクリニックからの紹介が多い、上・下肢の骨折や腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアや頰椎症性脊髄症を主に治療しています。椎弓形成術は顕微鏡下で行っており、必要に応じて固定術を追加する場合がありますが、経皮的スクリューを用いた低侵襲の固定術が多くなっています。クリニカルパスを利用して、在院日数の軽減に努めています。また、上・下肢の全ての骨折の治療を行っており、最新の手術法も積極的に取り入れています。上肢と足関節以下の骨折は、超音波下での伝達麻酔を積極的に導入し、患者さんの希望によっては外来手術も多く行っています。病態が落ち着いたら、地域のクリニックへ積極的に逆紹介しています。

■脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K1781	脳血管内手術（1箇所）	29	1.31	16.9	20.69	64.66	
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	26	1.35	13.69	15.38	74.23	
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	26	1.12	35.73	23.08	60.62	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	25	2.92	26.24	12	61.52	
K1783	脳血管内手術（脳血管内ステント）	21	3.1	10.48	4.76	56.14	

脳血管障害、脳腫瘍、機能的疾患などの多数の手術の中で、当科で実際に行われている手術の中で、最も数の多いのは、脳動脈瘤に対する手術です。この中には、カテーテルを用いて行う血管内治療と、開頭して施行するクリッピングがあり、動脈瘤の部位や形状、全身状態を十分に検討の上、なるべく負担の少ない治療を行っています。上記のように多くの場合、動脈瘤は1個のことが多いですが、中には複数個の動脈瘤があり同時に治療する場合、或いはバイパス術との併施で血管遮断を行う場合などもあり、それらを合わせると年間40症例以上の手術数となっております。その他、慢性硬膜下血腫は高齢者に比較的多くみられる疾患で、局所麻酔で行い、手術直後から麻痺の改善などがみられるなど著効がみられています。

■泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	74	1.31	5.08	5.41	72.41	
K8036イ	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	56	1.3	6.2	1.79	73.2	
K7811	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	23	2.04	3.78	0	61.39	
K773-2	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	12	1	8.17	0	61.83	
K775	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	11	6.64	29.27	18.18	79.36	

当院では経尿道的尿管ステント留置術は、尿管結石を伴った尿路感染や消化器科、婦人科の進行がん及び悪性リンパ腫等によって尿管狭窄を来した患者さんへの対症療法として施行するケースが多く、クリニックから紹介の多い尿管結石に対しては、レーザーによる経尿道的尿管結石除去術を行っています。また、がん治療については積極的に低侵襲な内視鏡治療を中心に治療を行っております。地域医療の中核として質の高い医療を提供します。

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	27	0.3	5.96	0	78.81	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	12	0.83	1.42	0	17.67	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	10	0.7	1.3	0	34.9	
K753	毛巣嚢，毛巣瘻，毛巣洞手術	10	1	17.8	0	28.7	
K0021	デブリードマン（100cm ² 未満）	—	—	—	—	—	

皮膚外科分野の診療を積極的に行い手術件数は順調にのびてきています。皮膚科もがん診療拠点病院として皮膚悪性腫瘍の手術加療に重点を置いています。順調に件数ものびています。その他にも良性腫瘍や創傷、褥瘡も多く、手術術式は形成手術まで多岐にわたっていることも特徴です。